

A Place for Youth

vol.02

ユースサポート・ユースワークふじさわ
活動報告2024



目次

01	2024年度 支援活動報告	P3
02	2024年度 新規利用者の概要	P7
03	特集1 わなげ屋プロジェクト	P8
04	特集2 支援レポート2023-2025	P12
05	運営法人の紹介	P14

ユースサポート・ユースワークふじさわとは

ユースサポート・ユースワークふじさわは、藤沢市の「子ども共育計画」に基づき、困難を抱える若者の自立支援を目的として設立された支援機関です。仕事や学校、ひきこもりなど、社会生活に関する悩みを抱える若者たちが、自立していけるようサポートを行っています。下記の3つの取組みを軸として、一人ひとりの状況に寄り添いながら、丁寧で柔軟な支援を提供しています。

①個別支援（相談）

初回相談・登録後に、担当の相談員が付き、若者の自立や就労に向けた困りごとや不安をじっくりと伺います。それぞれの状況に合わせたサポートを提供し、仕事や学校、生活に関するニーズに応じた支援を行います。また、必要に応じてご家族との面談や関係機関への同行支援も実施します。さらに、市民センターなどでの出張相談も行っています。

②プログラム

若者が自分自身を理解し、一歩を踏み出すきっかけとなるよう、さまざまなプログラムを用意しています。例えば、外出の機会を作る、生活リズムを整える、人との関わりを増やす、新しいことに挑戦するなど、幅広い内容の活動を展開。所内での活動だけでなく、地域でのボランティアや就労体験プログラムも行っています。

③家族支援

若者を支えるご家族に向けて、さまざまな支援を行っています。現代の就職事情を知る、子どもとの関わり方を学ぶ、そして「困難を抱える子どもを理解するために」必要な知識や視点を深めるセミナーを開催しています。また、同じような悩みを持つご家族同士が、安心して気持ちを共有できる「家族交流会」も企画しています。孤立を防ぎ、支え合える場づくりを大切にしています。

2024年度 支援活動報告

個別支援（相談）件数

支援の中心は、担当相談員がついて継続的に行う「個別相談」です。そのほかにも、市民センターでの出張相談や、必要に応じた関係機関への同行支援など、個別の状況に応じたサポートを行っています。

個別相談	同行支援 ケースカンファ	出張相談	合計
1638件	14件	14件	1666件

プログラム参加者延べ数

個別相談に加えて、プログラムも若者支援に重要な要素です。2023年度に比べると約1.5倍に参加者数が増えました。

所内 プログラム	就労体験	社会体験 (ボランティア)	居場所	合計
1268人	92人	47人	156人	1563人

プログラムの内容

様々なバリエーションのプログラムを行いました。若者一人ひとりが自分の目的や興味に合わせて参加しています。

カテゴリ	実施したプログラム
ものづくり／体験	羊毛フェルト、コラージュ、ちぎり絵、スクラッチアート、アロマテラピー、レジン、ペーパークラフト、インクアート、ビーズ、ヒンメリ、パソコン分解、クッキング、クリスマスケーキ作り、ツリーづくり、紙粘土、指編み、折り紙、寄せ植え、切り絵、工場見学、農業体験など
スポーツ／ゲーム	卓球、バドミントン、散歩、パズル、オセロ、UNO、謎解き、ジェンガ、トランプ、昔あそび、ボードゲーム、カブラ、ボイストレーニングなど
コミュニケーション 練習	トーキングゲーム、SST（ソーシャルスキルズトレーニング）、CBT（認知行動療法）など
就労にむけて （「はたらく」シリーズほか）	様々な働き方、仕事のルールとマナー、会社の仕組み、働く理由、長所と短所、自分の職業興味、いろいろな職種、求人票の見方、履歴書の基本、面接の練習、ハローワーク見学ツアーなど全23種 プログラミングdeドローン講座、文章作成講座、パソコン基礎講座、AIで自己紹介を作ってみよう講座、Canva入門講座、派遣のお仕事セミナー、警備のお仕事セミナーなど

就労体験プログラム

2024年度は下記の就労体験を実施しました。地域の企業様、事業所様、ご理解とご協力ありがとうございました。

就労体験受け入れ先	体験内容
藤沢世話焼きワーカーズコレクティブはまゆう	宅配事業所にて、宅配トラックの片づけ補助、チラシ折りなど
認定NPO法人 WE21ジャパン藤沢 WEショップ藤沢	リサイクルショップにて 検品、食器洗浄、アイロンがけ、レジ、閉店作業など
認定NPO法人藤沢市市民活動推進機構 (藤沢市市民活動推進センター)	市民活動の場の事務所内にて、データ入力、書類整理など
オーケー辻堂羽鳥店	スーパーにて、袋詰め、パック詰め、品出しなど
株式会社ジャスティスライズ	警備会社にて、警備業務の見学

社会体験（ボランティア）プログラム

2024年度は下記の社会体験を実施しました。地域の企業様、事業所様、ご理解とご協力ありがとうございました。

社会体験受け入れ先	体験内容
公益社団法人藤沢市みらい創造財団 青少年事業部 スポーツ・芸術文化事業部	青少年会館での児童の見守り、 藤沢市民会館小ホールでのイベントスタッフ 湘南台文化センター市民シアターでのイベントスタッフなど
藤沢市産業労働課	湘南合同就職説明会のスタッフ
その他	Fプレイスフェスタ・藤沢公民館まつり出店のスタッフ、 保護犬・保護猫のお世話、ビーチクリーンなど

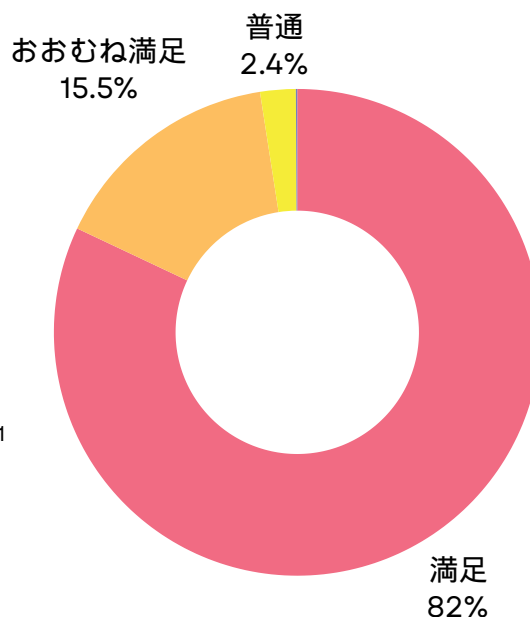


所内プログラム アンケート結果紹介

所内プログラムでは毎回、終了後にアンケートの記入をいただいています。「プログラムの内容について、満足度はいかがでしたか？」の問いに対し、満足、おおむね満足を合わせると97.5%。多くの方にご満足いただきました。



有効回答数：1101



アンケートよりコメント抜粋

「今回参加して、印象に残ったことや参考になったことがあればご記入ください」という欄へのコメントを一部抜粋してご紹介します。

- 一緒に歌うことで親しくなれて楽しかった。(ボイストレーニング参加・20代女性)
- 肉を切ることがあまりないので、やってみて新鮮でした。(クッキング参加・30代男性)
- 時間を忘れて没頭できたので、緊張もほぐれ楽しかった。(切り絵参加・10代女性)
- 協力して謎解きをし、コミュニケーションできた。1人よりも早く解けたので、自分だけで考えてるよりも発見があることに気づいた。(ゲーム謎解き参加・30代男性)
- 久しぶりに卓球やったけど思っていたよりできてうれしい。前より疲れなくなった。(卓球参加・20代女性)
- プラス思考に変えるのは無理だと思っていたけれど、バランスよく目を向けるのならできるかもしれないと思った。(CBT参加・30代男性)
- 参加メンバーが違くと雰囲気も違って感じました。普段の会話でも必要なスキルだと感じました。(トークゲーム参加・30代男性)
- 自分の気にしていないところが「よかった」と言われハッとしました。他の人のロールプレイを見て、いろいろな場面を話し合えたのがよかった。(SST参加・30代女性)
- 文章を書くときはまず情報を集めて整理することが大切だと知ったので、これからは書く前の準備をしっかりやろうと思いました。(文章作成講座参加・20代女性)
- 緊張したけど堂々とできたような気がしました。1回目できなかったところを2回目でやり直すことができたので、満足いくロールプレイができました。(面接ロールプレイ参加・20代女性)
- 自分の性格や個性を客観的に考えられることは中々ないので、他の人からの視点で自分を見て自己理解を深められたのがよいと思いました。(働くを考えよう参加・40代女性)
- 気になる企業をちょっと調べてみると他に気になる点が出てきたり、他社と比べたらどうなんだろうと思って調べてみたいことがいっぱいあった。(働くを調べよう参加・20代女性)
- しくみがよくわかっていなかった雇用形態を理解することができた。ネガティブなイメージが強かった派遣の良い面を知ることができよかった。(派遣のお仕事セミナー参加・20代女性)
- 警備員の仕事にもいろんな種類があるんだなと思った。(警備のお仕事セミナー参加・10代男性)

家族支援～セミナーと交流会～

2024年度は下記のように家族向けセミナーと家族交流会を行ないました。毎回反響が大きく、家族支援のニーズの高さを実感しました。

内容	講師	参加数
ひきこもる若者との向き合い方 ～ひきこもり経験者の体験をもとに～	社会福祉士・精神保健福祉士 岡本圭太氏	52人
ひきこもりを経験した相談員が語る ひきこもりの理解と家族ができること	ヒューマン・スタジオ代表 丸山康彦氏	38人
家族交流会（3回）	ファシリテーター 臨床心理士・公認心理師 大石加奈	33人
合計		123人

支援の成果



新たな社会とのつながりが増えた：70件

2024年度の進路決定は、就労開始34件、そのほか36件の合計70件となりました。これは2023年度の30件と比べると2倍以上に増加しています。

＜就労開始の内訳＞

- ・ 正規雇用：飲食等サービス業2件／事務2件／運送業1件
- ・ 非正規雇用：販売10件／飲食等サービス業8件／倉庫内作業4件／事務2件／清掃2件／警備2件／製造1件

＜その他の内訳＞

医療・障害系の機関等利用開始10件／ハローワークなど就労支援機関の利用開始8件

就労移行支援事業所通所開始6件／就労継続支援B型事業所通所開始3件／自立訓練事業所通所開始1件／

職業訓練校へ入校3件／高等学校・専門学校・大学への入学・復学5件

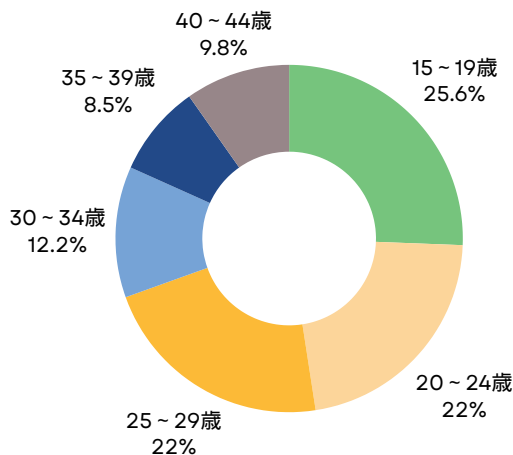
このように進路決定として計上される成果はもちろんのこと、「少し話せるようになった」「初めてプログラムに参加した」「新しいことに挑戦できた」そんなひとつひとつの出来事も、大切な成果です。若者たちは自分を知り、社会を理解し、様々な体験を通じて日々変化・成長していきます。私達は、数値では伝えにくいこのような変化も自立への大きな一歩、支援の成果だと捉えています。

2024年度 新規登録者概要

2024年度の新規登録者数は148人でした。ユースサポート・ユースワークふじさわを利用する若者たちはどんな若者たちなのかイメージしていただくために、年齢層や来談経緯などインタビュー（初回相談）で得た概要をお伝えします。

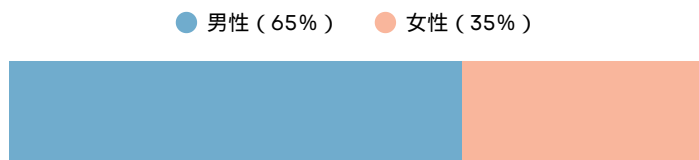
年齢層

平均年齢は26歳でした。2023年度と比べると30代、40代の割合が増加しました。

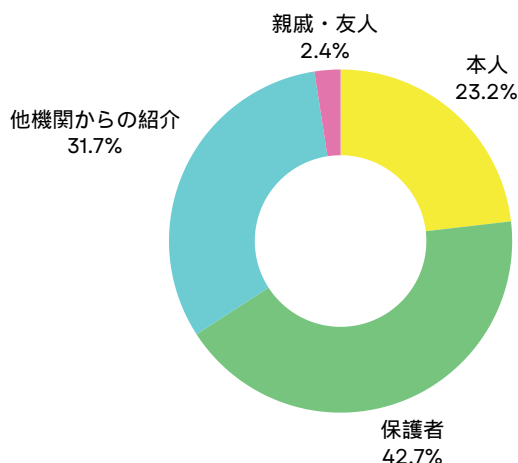


男女比

男女比は男性がやや多く、65%でした。特に30代、40代は男性が多い傾向でした。



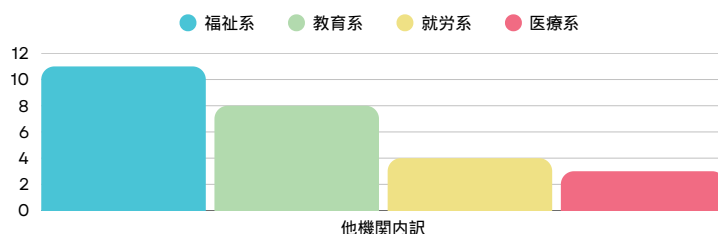
来談経緯



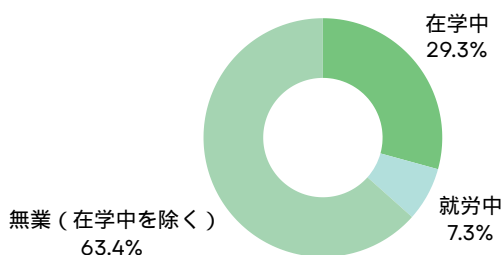
ユースサポート・ユースワークを利用するきっかけとして最も多かったのは、「保護者から勧められた」であり、全体の約43%を占めました。次いで多いのが他機関からの紹介でした。その内訳を見ると、福祉系の機関からの紹介が最も多くなっています。

- 福祉系機関：藤沢市生活援護課、社会福祉協議会、障がい者地域相談支援センター、就労移行支援事業所、自立訓練事業所など
- 教育系機関：藤沢市内の大学、高等学校、中学校
- 就労系機関：ハローワーク藤沢、よこはま若者サポートステーション、かながわ若者就職支援センター
- 医療機関：精神科・心療内科など

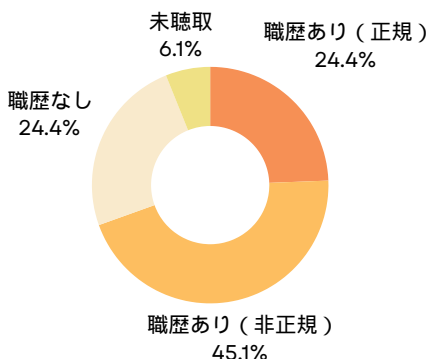
他機関からの紹介内訳



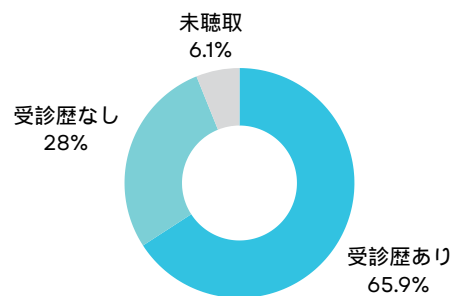
初回時の状況



これまでの職歴



精神科・心療内科の受診歴



初めて来所したときの状況は、約6割の方が学校にも職場にも所属していない、無職の状況でした。在学中の方は約3割でした。これまでの職歴としては正規、非正規含めると7割の方が働いた経験をお持ちでした。また、6割以上の若者が精神科・心療内科の受診歴がありました。これは過去に一度だけ受診したという人も現在通院中の人も含んでいます。このように多様な背景をもつ方々が利用されています。

長期プログラム/わなげ屋プロジェクト

ユースサポート・ユースワークふじさわ（以下、ユースふじさわ）がある藤沢市民センター・労働会館等複合施設（Fプレイス）では、毎年秋に地域の方を招いて「Fプレイスフェスタ」を開催しています。ユースふじさわも毎年、模擬店を出店しています。2023年は主にスタッフが運営しましたが、2024年は利用者が中心になって運営することを目指しました。



プロジェクト概要

- 【目的】 ユースふじさわの利用者（メンバー）で力を合わせて模擬店を出店し、来場者に楽しんでもらう。
- 【体制】 ユースふじさわの利用者（メンバー）が主体的、継続的に企画・運営する。スタッフは必要なサポートを行う。
- 【期間】 2024年9月13日～10月25日 毎週金曜日 15：30-16：20（17：00まで居残り可）
当日含め全8回（準備6回、当日、振り返り1回）
- 【当日のイベント概要】 10月19日（土）営業時間10：00～15：30 「わなげ屋」
- 【場所】 Fプレイス5階 ユースサポート・ユースワークふじさわ内
- 【参加者】 登録したメンバー10人 延べ活動人数48人

**わなげ屋
プロジェクト
メンバー募集**

Fプレイスフェスタで
わなげ屋をやろう！

開店 2024年10月19日(土)10：00-16：00

プロジェクト期間 9月18日～10月25日
毎週金曜日15：30～16：20 当日含め全8回

定員 8人

やること 企画・運営が体験できる
 わなげのルール・景品・役割分担を相談して決める
 どんな道具や装飾品がいいか考えて作る
 会場を作り上げる（前日）
 お客様にわなげを楽しんでもらう（当日）
 ふりがえり

異も
見てね

全日程参加が原則ですが、各自の都合も考慮できます

ユースサポート・ユースワークふじさわ
 事前に担当相談員と参加目的を話し合った上で
 お申込みください。参加後に個別相談の中で
 振り返りを行います。

申込 0466-86-5481
<https://www.youthport.jp/fujisawa/>



わなげ屋プロジェクト
メンバー募集のチラシ

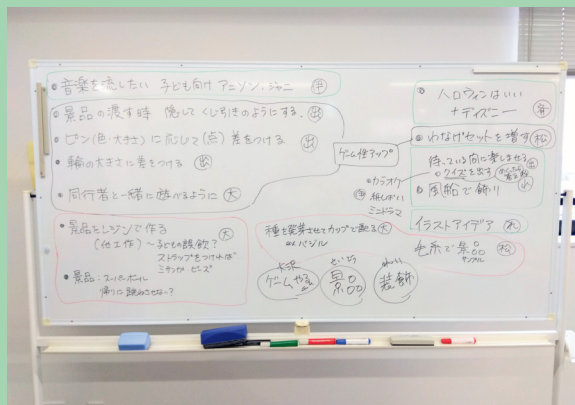


1日目 9/13 (金) 参加者7名



メンバー自己紹介の後、目的・日程、去年の様子など、プロジェクトとわなげ屋の概要をスタッフから説明しました。その後どんな「わなげ屋」にしたいかを話し合いました。終了後「もっと話を続けたい」との声が出て、居残り時間30分を設定しました。

2日目 9/20 (金) 参加者5名



目指している「わなげ屋」のイメージを共有しながら、3つのグループに分かれて、「ゲームのルール」「景品の数や種類」「会場の装飾のテーマや材料」を検討しました。現物を見て考えたいとの意見から、終了後全員で100円ショップに下見に行きました。

3日目 9/27 (金) 参加者3名

[illegible]

就職活動や体調不良で欠席者が多く、新規参加のメンバーを中心に話し合いを進めました。景品に編み物・塗り絵などメンバーの手作りの品を加えることなどを決め、購入するもの・制作するもののリストを作りました。

4日目 10/4 (金) 参加者7名



メンバー数は回復しました。わなげのピンや輪、景品を入れる箱、チケット、掲示物、装飾品など、分担を決めて制作に入りました。1度では思うようなものが作れず、試行錯誤しながら進めました。

5日目 9/13 (金) 参加者5名



完成まであと一歩。限られた時間の中で効率を考えて制作を進めました。この頃には人手が足りないときには自然と助けあうメンバー間の協力体制も確立していきました。

6日目 10/18 (金) 参加者7名



明日の本番に備えて、会場づくりと当日の役割分担の確認とリハーサル。いつもと違うユースの光景に気持ちがいっただよびます。急遽、新メンバー2人が助っ人として参加してくれました。



7日目 10/19 (土) Fプレイスフェスタ当日

開催時間: 10:00~15:30

参加者: 7名 (終日参加5名・2時間のみ参加2名)

チケット販売: 1枚10円/販売枚数566枚

＜メンバーは5つの仕事を分担＞

- 呼び込み・誘導: 来場者への案内・勧誘
- 受付: チケットの確認・販売
- 輪の受け渡し: ゲーム用の輪を来場者へ渡す
- 輪の回収: 使用後の輪を回収
- 景品の受け渡し: ゲーム後の景品を選んでもらい、渡す

＜当日の様子＞

午前中は近隣小学校の運動会と重なり、来場者数が例年より少なく心配しました。チケットの売れ残りを防ぐため、急遽「1人1枚」の購入制限を「3枚まで」に変更。これにより各持ち場で想定外の対応が必要になり、一時的に混乱が生じましたが、「急なルール変更の是非」「臨機応変な対応の重要性」についてメンバー間で考える機会となりました。

さらに、装飾のメインであるパステルカラーの風船が次々割れるという予期せぬアクシデントも発生。

午後に入ると来場者が増え、会場は大盛況！営業時間を予定の15:00から30分延長しました。目標販売枚数600枚には届きませんでしたが、566枚を販売することができました。

終了後はわいわい楽しく後片付けと記念撮影。イベントの成功を祝いつつ、リラックスした時間を楽しみました。

景品は小さなお菓子やメンバー手作り品。毛糸のチャームや塗り絵、手裏剣折り紙など子供たちに大人気でした！



お菓子や手作り品から景品を選んでもらいました

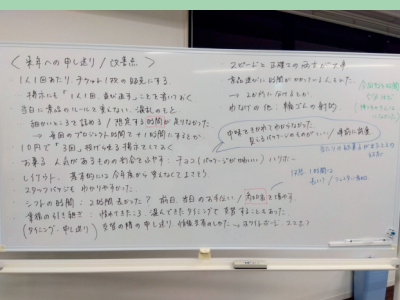
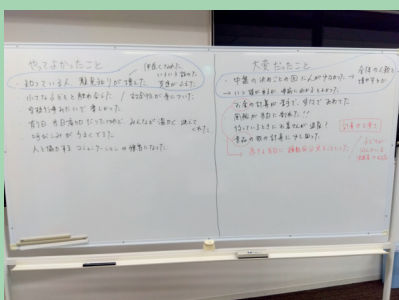


パーティションも風船やイラストで飾り付け。



閉店後に記念撮影。お疲れ様でした!!

8日目 10/25 (金) 参加者7名



Fプレイスフェスタの翌週にメンバーで再度集まり、振り返りの機会を設けました。プロジェクトの感想を語り合い、来年への申し送りもまとめました。その帰りにみんなで打ち上げに行ったという噂も聞きました！

プロジェクトを振り返って

参加メンバーの声

アンケートから

参加した目的

- ・定期的な予定がほしかった／外出機会
- ・知り合いが増えたらいい／人と交流したい
- ・協調性を伸ばしたい
- ・プロジェクトを勉強したい
- ・勇気を出してチャレンジしてみたい
- ・前向きにがんばる習慣を身につけたい
- ・音楽をかけて、学園祭のように盛り上げたい

参加して「よかったこと」

- ・メンバー同士が仲良くなれた。友だちになった
- ・メンバーが増えていったのがうれしかった
- ・途中参加だったけれど温かく迎え入れてくれた
- ・文化祭みたいなことができてやりがいを感じた
- ・「みんなでやっている」感じがした
- ・小さい子と会話ができた、喜んでもらえた
- ・コミュニケーションの練習になった
- ・人と関わるよい機会になった
- ・呼び込みがうまくできた

参加して「大変だったこと」

- ・中盤に参加メンバーが減ってしまった
- ・いつ誰が参加するかわからなかった
- ・当日ルールが変更になって、お金の計算、景品の渡し方で混乱した
- ・スピーディーに行動すること

メンバー同士が仲良くなれてうれしい。

とにかく楽しかった。高校の文化祭みたいだった。

子どもは苦手だから、準備だけ参加するつもりだったけれど、当日も参加できて、子どもに楽しんでもらえて嬉しかった。

準備する時間がもっとあればよかった。

途中参加だったけれど、温かく迎え入れてくれた

担当スタッフより

初回は緊張している感じが感じられましたが、回を重ねていくうちに表情が明るくなって、メンバー間の連携がスムーズになりました。また、「もっと残って話し合いたい」「みんなで100円ショップに下見に行こう」「プロジェクト以外の時間にも自主的に集まって、手作り品をつくろう」「打ち上げに行きたい」などたくさんの提案がでてくるようになりました。手作り品のサンプルを家で作って持ってきてくれたこともありました。2か月にわたるプロジェクトの中で、楽しかったことや、できないと思っていたのにできちゃったこと、反対にうまくいかなかったこと、残念だったこともあったと思います。それらすべてを含めてよい思い出にしてもらえたらうれしいです。



まとめ

全8回にわたる「わなげ屋プロジェクト」は、参加者の皆さんがイベントの企画、準備、実施、振り返りに主体的に取り組み、チームで協働しながら学びを深めることを目的として実施しました。限られた時間の中で、アイデアを形にする難しさや、優先順位の判断、役割分担の工夫、さらには予期せぬ事態への対応など、さまざまな課題に直面する場面もありましたが、参加者同士が協力し合いながら一つひとつ乗り越えていく姿が印象的でした。こうした取り組みを通じて、チーム内に信頼関係や相互の成長を促す土壌が生まれたことは、本プロジェクトの大きな成果のひとつです。

プロジェクト終了後も、他プログラムへの誘い合いや情報交換を通じて、新たな関係性が育まれ、参加者同士のつながりが続いている方もいます。このような温かな交流の場を提供できたことも有意義なことでした。また、実施から半年が経過した今、プロジェクトをきっかけに社会との関わりを大きく広げた参加者もいます。その変化を支える場づくりの重要性を再認識する機会となりました。

今回の実施内容および振り返りをもとに、2025年度はさらに発展的で、より多くの学びと挑戦の機会を提供できるプログラムの企画を進めてまいります。今後も、若者が自分らしく挑戦し、社会とつながる場を継続的に創出していけるよう引き続き尽力してまいります。

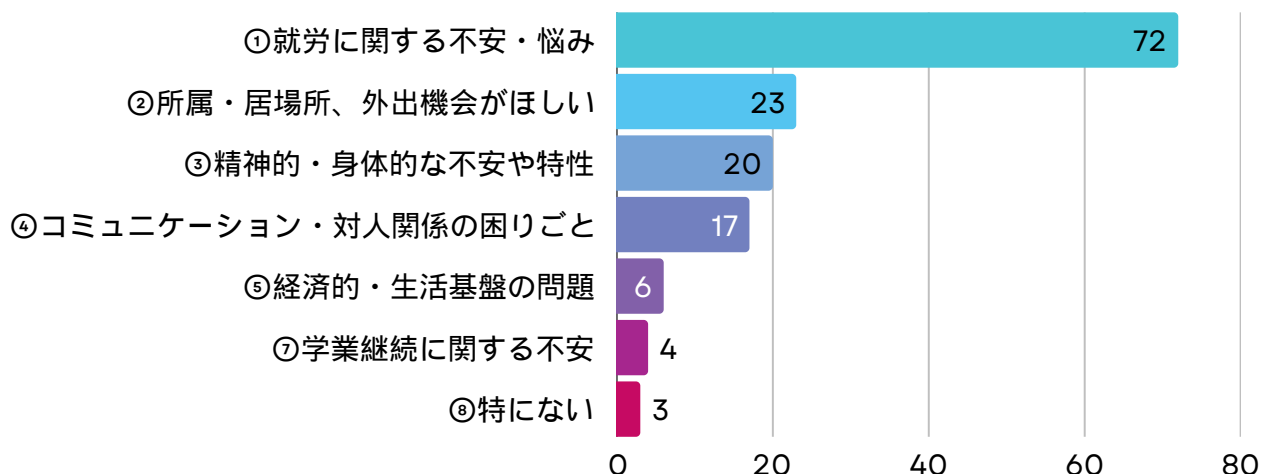
社会とのつながりを増やす/支援レポート2023-2025

2023年度新規登録者の支援経過を後追いし、2025年3月末時点での集計を分析しました。

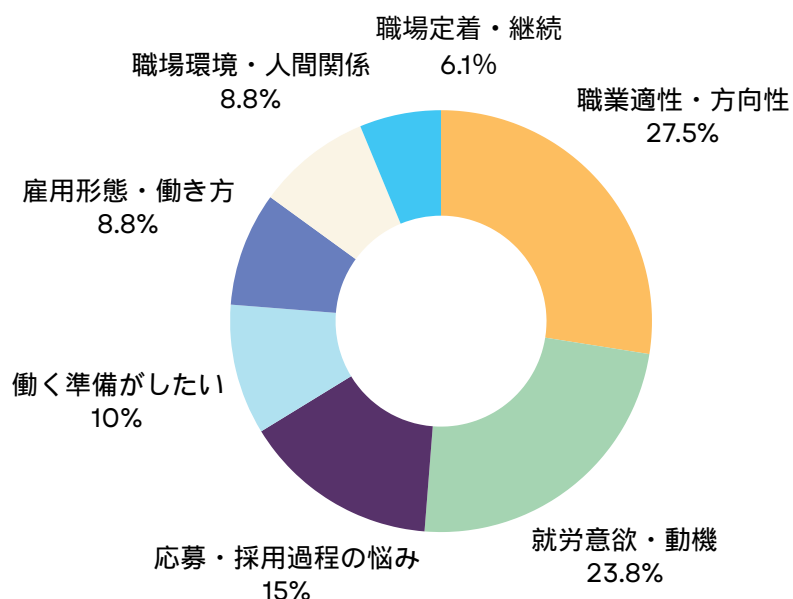
相談員との継続相談	現在の支援状況	支援期間
継続相談を利用 93% ＊利用しなかった 7% ＊初回相談のみで継続相談がなかった方	継続中 41% 終了 59% 2025年3月末時点での状況	＊ 1年以上 52% 1年未満 48% ＊1年以上のうち、76%は継続中

相談したいこと（主訴）

初めて来所したときに本人が抱えていた困りごと、相談したいこと（主訴）を%で表しています。
「就労に関する不安・悩み」が72%と最多でした。重複があるので合計は100%を超えています。



「就労に関する不安・悩み」の内訳



「就労に関する不安・悩み」の具体例

「自分に向いている仕事分からない」「キャリアの方向性を相談したい」「働きたいとは思っているが、どうしたらいいか分からない」「働きたいが仕事が続けられるか不安」「応募しても受からない」「面接が苦手に応募できない」「職場で人とうまくやれるか不安」「正社員で働きたい」「自分に合っている雇用形態はなにかを考えたい」「今の仕事を続けるか迷っている」「すぐに働けないと思うので働く準備をしたい」

変化の状況

支援を継続している方が約40%ですので、今後も状況は変化しますが、2025年3月末時点を切り取った集計は下記となります。

プログラム参加率

プログラムに参加した 62%

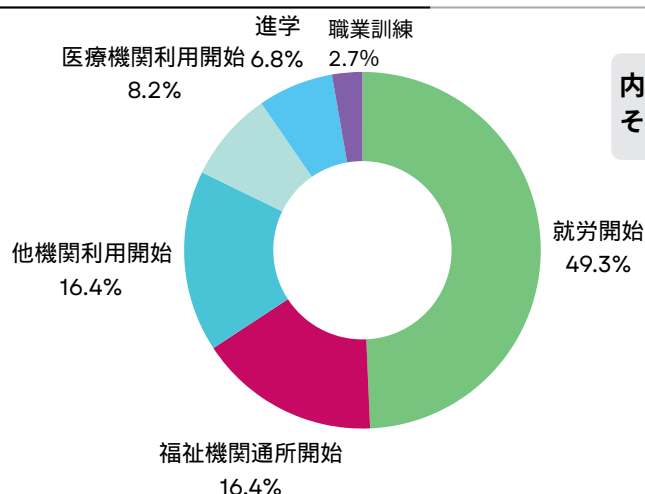
＊ユースサポート・ユースワークふじさわのプログラムに参加したことのある人の割合

社会とのつながり

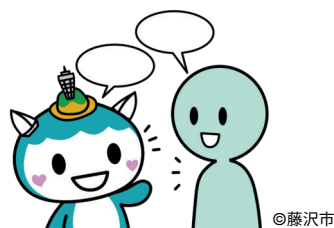
新たな社会とのつながりが増えた 46%

＊これは進路決定として明確に集計できたものに限られた数値です。実際にはこれらに加え、例えば「初めて友達が出来た」「安心して行ける場所が増えた」など多様な変化・成長がありました。

「社会とのつながりが増えた」内訳



内訳のおよそ半数は就労開始。
そのうち正規雇用が22%、非正規雇用が78%でした。



©藤沢市

まとめ

この支援レポートは、2年間を遡り2023年度に新規登録された方の主訴や支援の経過、支援成果について2025年3月末時点の状況をもとに分析したものです。初めて来所したとき、ご本人の困りごととして最も多かったのは「就労に関する不安・悩み」で、全体の72%を占めていました。具体的には、「自分に合った仕事が見つからない」「働く意欲はあるがどう動けばよいか分からない」「応募しても採用されない」「職場で人とうまくやれるか不安」などの声がありました。これらは、職業適性や働く動機づけ、応募・採用に向けた支援、職場環境への適応など、多方面にわたるサポートの必要性を示しています。加えて、「所属・居場所、外出機会がほしい」「精神的・身体的な不安や特性」「コミュニケーション・対人関係の困りごと」など、社会的孤立や心身の課題に関する訴えも多く見受けられました。若者が多面的で複合的な困難を抱えていることが明らかになりました。

このような困りごとを抱えた方々に対し、93%に継続的な相談支援を行ない、支援が1年以上続いているケースが半数以上に上っています。長期的な支援を必要とされる方も多く、単発的な対応ではなくじっくりと寄り添う姿勢が大切であることがうかがえます。

支援の成果を表わすものとして「社会とのつながりが増えた人」は46%でした。その内訳として最も多かったのは「就労開始」で、およそ半数を占めています。この他にも、福祉や医療、職業訓練校等利用開始、入学など、進路や生活に関する多様な変化が見られました。なお、この46%という数値は進路決定として明確に集計できたものに限られた数値です。実際には、「初めて友だちができた」「電車に乗れるようになった」「安心して行ける場所が増えた」「今まで怖くてできなかったけれど、仕事に応募できた」など、様々な変化・成長があります。これらは数値では表しにくいものですが、大きな意味を持つ成果だと私たちは捉えています。

今回の分析を通じて、就労や生活に不安を抱える若者にとって、それぞれの状況に応じたきめ細やかな支援と、安心して自分のペースで相談できる場の存在がいかに重要であるかが改めて明らかになりました。今後も、一人ひとりの変化や成長を丁寧に支え、社会とのつながりを増やしていく支援を続けてまいります。

ユースポート横濱

2023年度より、ユースサポート・ユースワークふじさわは認定NPO法人ユースポート横濱が運営しています。

認定NPO法人ユースポート横濱とは

法人概要

- ・ 設立：2006年9月
- ・ 事務局所在地：横浜市西区北幸1-11-15横浜STビル11階
- ・ 連絡先：TEL 045-641-2751 FAX 045-290-7235
- ・ ホームページ：https://www.youthport.jp/

運営している事業

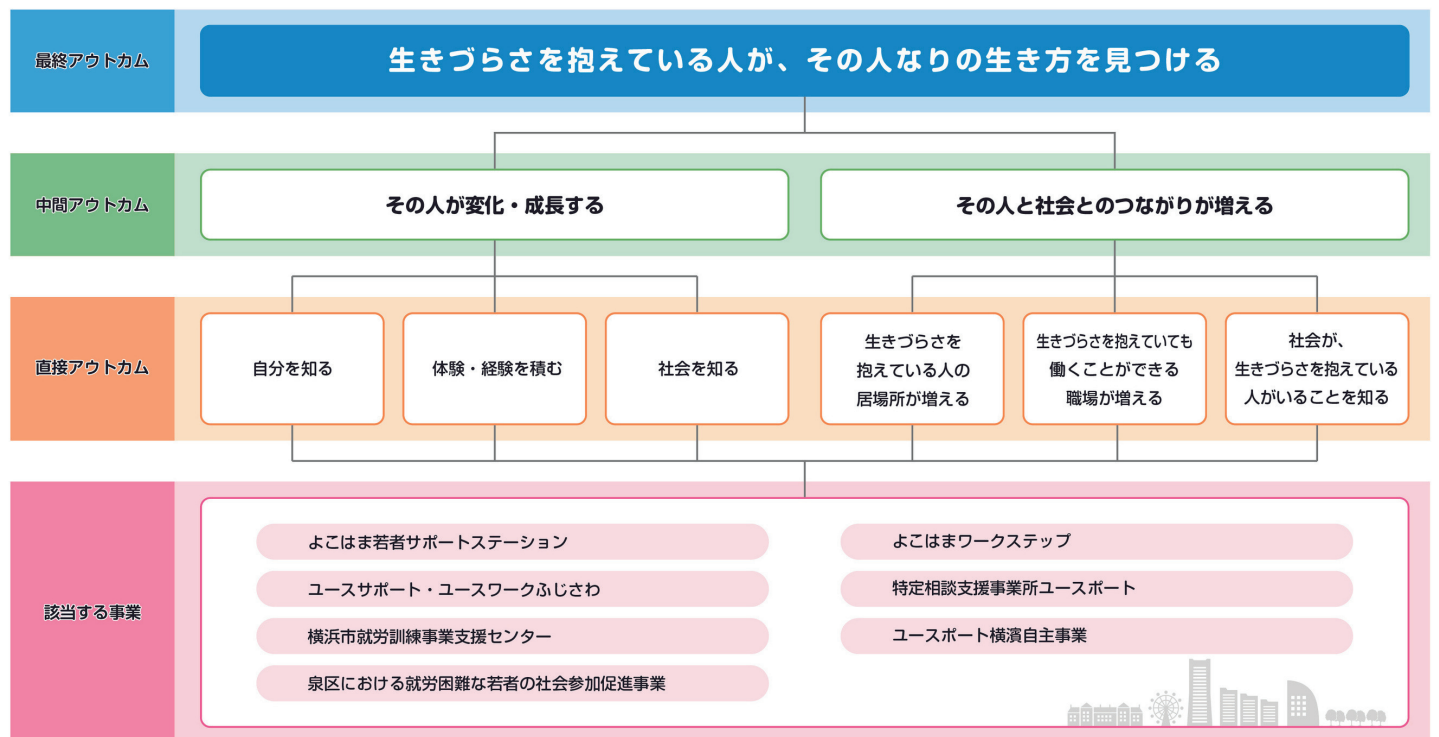
- ・ よこはま若者サポートステーション
- ・ 横浜市就労訓練事業支援センター
- ・ 特定相談支援事業所ユースポート
- ・ ユースサポート・ユースワークふじさわ ほか

Mission

孤立状態にあることで困難を抱えている人に対してその人がありたい姿に近づけるよう就労や生活の支援をすること。また、支援を通じて発見した課題に取り組むことによって社会に貢献すること。

認定NPO法人ユースポート横濱 ロジックモデル

社会には、その姿が見えにくいままに生きづらい状況に置かれている人がいます。その人は、お金に困っていたり、学校や職場でつらい経験をしていたり、家庭が安心できる場ではなかったり、一人きりで孤独を感じていたり、病気や障害を抱えていたりします。また、人や社会に対する信頼を失ったり、自己責任だと自分を追い詰めたりすることで、安心して過ごせる場所を見つけられない、将来に対する希望を持たない状況にもつながっています。さらに、社会的に孤立すると、多くの人が当たり前にしている経験をする機会を逃し、必要な情報、選択肢にアクセスすることも難しくなります。一つの“正しい”生き方が存在するわけではなく、特定の生き方を社会が課すものでもありません。ユースポート横濱は、このロジックモデルに基づき、生きづらさを抱えている人がその人なりの生き方を見つけ、実現するためのサポートをしていきます。



*本モデルは、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 源由理子教授のファシリテートのもと、法人職員を対象としたワークショップにて作成。

おわりに

ユースサポート・ユースワークふじさわでは、2024年度も多くの若者と出会い、それぞれの歩みに寄り添う支援を行ってきました。困難や不安を抱えながらも、自分自身と向き合い、少しずつ前に進もうとする姿から私たちも多くの気づきと学びを得ています。

「少し話せるようになった」「初めてプログラムに参加できた」「新しい挑戦ができた」——そんな一つひとつの変化が、その人なりの成長の証であり、支援の成果であると私たちは考えています。進路の決定や就労の開始といった目に見える成果だけでなく、日々の小さな一歩にこそ、大きな意味があることを実感する毎日です。

また、2023年度より事業を引き継いだ認定NPO法人ユースポート横濱にとって、本年度は受託2年目となる年でした。これまで横浜市を中心に積み重ねてきた若者支援の経験を活かしながら、藤沢の地に根ざした支援体制の構築を進める中で、多くの関係機関や地域の皆さまから温かいご理解とご協力をいただき、無事に2024年度も終えることができました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

今後も、ひとりひとりの変化や成長を丁寧に支え、社会とのつながりを自然に育んでいけるよう、私たちは歩みを進めてまいります。若者たちが安心して過ごせる場所であり、未来へ向かう「きっかけ」と出会える場であることを目指して、これからも支援を続けていきます。

引き続き、皆さまのご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ユースサポート・ユースワークふじさわ 施設長
(認定NPO法人ユースポート横濱 理事長)
熊部良子



ユースサポート・ユースワークふじさわ

対象

藤沢市在住・在勤・在学の
15歳～44歳の方とご家族

開所時間

火曜日～土曜日 10:00～18:00
(休館日：日・月・祝日・年末年始)

利用料

無料

利用方法

予約制。電話またはWEBフォームで
ご予約の上、相談にお越しください。

住所

藤沢市本町1-12-17 Fプレイス5階
藤沢市民センター・労働会館等複合施設

申込・問合せ

電話：0466-86-5481
<https://www.youthport.jp/fujisawa/>

運営法人

認定NPO法人ユースポート横浜

委託元

藤沢市産業労働課・青少年課

A Place for Youth vol.02

ユースサポート・ユースワークふじさわ活動報告2024

発行日：2025年5月

発行元：ユースサポート・ユースワークふじさわ
(認定NPO法人ユースポート横浜)

Copyright © Youthport Yokohama, All Rights Reserved.

